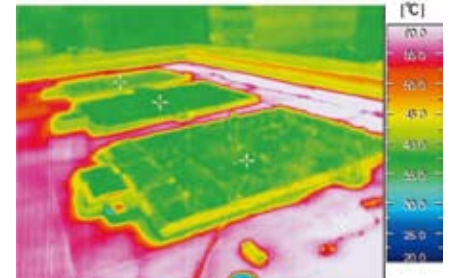


屋根表面温度上昇抑制方法

◎屋上緑化法・屋上散水法

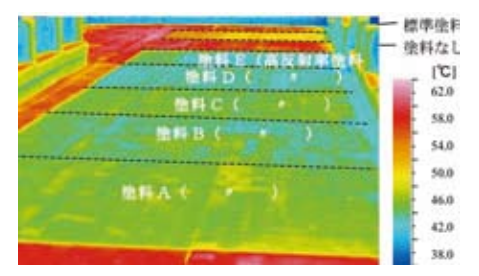
建物の強度、防水性・耐水性が十分な場合に適用可能
 散水設備・給水設備、地下水などの安価な水資源が必要



屋上緑化の表面温度上昇緩和効果測定状況

◎遮熱塗料工法

建物強度に依存しない。設備等工事・給水は不要
 コンクリート・断熱材を高温の蓄熱材に変化させない



資料引用：クールルーフ推進協議会HP

高反射率塗料の表面温度上昇緩和効果測定状況

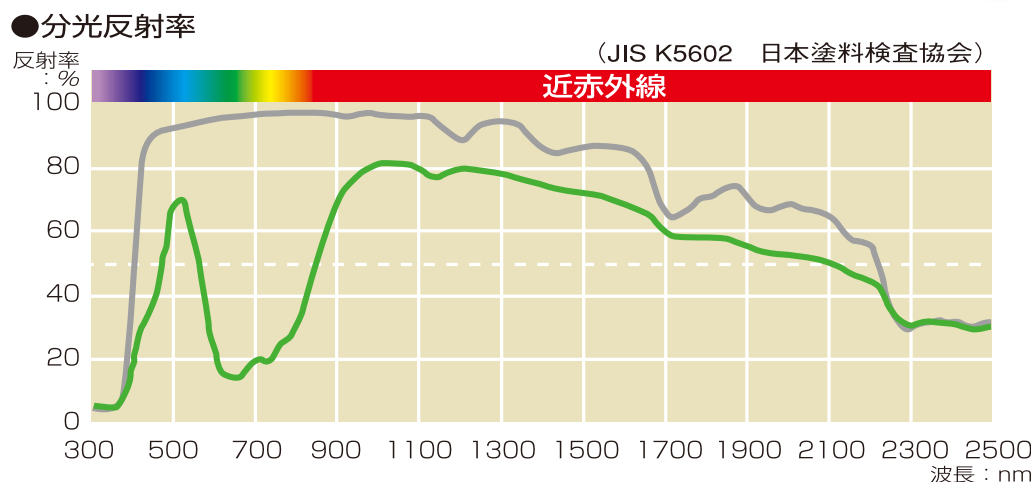
建物強度、防水性、コスト面などの比較



遮熱塗料工法の採用

遮熱塗料による温度上昇抑制効果

⇒日射反射率に比例



太陽光の50%以上を占める近赤外線領域は、もっとも熱を発生するため、この領域での反射率が遮熱塗料の性能に大きく左右します。

近赤外線領域で
 遮熱塗料(白)

90.7%反射

遮熱塗料(緑)

68.0%反射

太陽光のもっとも熱を発生しやすい近赤外線領域で、高い反射率を実現!!

色による日射反射率の違い

- 白 > ●クリーム > ●ベージュ > ●黄 > ●グレー
- > ●コーヒー > ●赤 > ●グリーン > ●茶 > ●群青 > ●黒

高い日射反射率
 白系/淡色系が有利